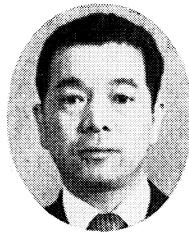


ヨーロッパに学ぶ

想
島
寺
泰



授業の指導効果を上げる一つの方針として、グループ学習がある。学級の児童をただ幾つかのグループに編制しただけではその効果を期待することはできない。効果を期待するためには児童が学習課題を把握して、互いに話し合い、解決の見通しと、手立てをみつけて解決に至るという過程を身につける必要がある。

ところで、このとき行われる話し合いは、相手を認め、自分が認められるという人間形成の上からも大切なものを含んでいると思われる。

毎日、同じ形態で指導するよりも教科や指導内容によって変化をもたせた方が効果的である。これまで私は算数科指導の中にこのグループ学習を取り入れてきたが、成績を向上させるとい

うより、むしろ児童の人間性の育成というねらいから実施してきたのである。

昨年の十一月、文部省海外教育事情調査の一員としてロンドンのチャーチワース、ジュニアアンドインファンントスクールを訪問した。そこで授業参観した折りに全く同じ学習形態で指導しているのを見て驚いたことがある。その後、視察を続けていくうちにグループ学習形態はロンドンばかりでなく、グラナダでもそうであり、聞くところによるトリスボンでもローマでもそうであるとのことである。

教師が黒板を背にして説明することの多い授業スタイルはヨーロッパの学校ではあまりみられない。私たちも自分の授業スタイルは児童にとって魅力度があることである。

本校のグループ学習風景

私たちも一学級、一学級の子供の教育に当たっているのではなく、日本の子供、世界の子供の教育にたずさわっているという考え方を持つことが大切なではないかと思うのである。

教材教具も日本ほど充実している学校はなかつた。しかしながら教具を感じ謝の気持ちを持つて大切に使つてゐる点は日本よりもすぐれていると思う。少ない教具でも十分に活用する方がより充実感があり幸せというものではなからうか。ヨーロッパの人々は物量の豊かさよりも生活を楽しんでいるといふことがこんなところにもみられる。見習うところがあるような気がするのである。

(梁川町立堰本小学校教諭)